

別紙4「分科会プロジェクトイメージ」

分科会プロジェクトイメージ

先端サービス都市実装プロジェクト

大学発先端技術開発プロジェクト

ゴール

- ① 西新宿エリアで定期的・定常的にサービスが実施され、都民の多くが生活の中で体験し、事業成立の蓋然性が高い状態

- ① 西新宿エリアの一部でサービスが実施/研究成果が具現化され、関係者や一定数の都民がモニターとして体験している状態

例：デジタルツイン

例：感触制御技術

- ① 西新宿にて、デジタルツインが定常的に提供されており、
② まちづくりに関わる多くの都民が利用可能で、
③ 持続可能なビジネスモデルを構築

- ① 西新宿において、感触制御技術を活用したユースケースを複数開発するとともに、都民の体験機会を確保



<サービス体験イメージ>

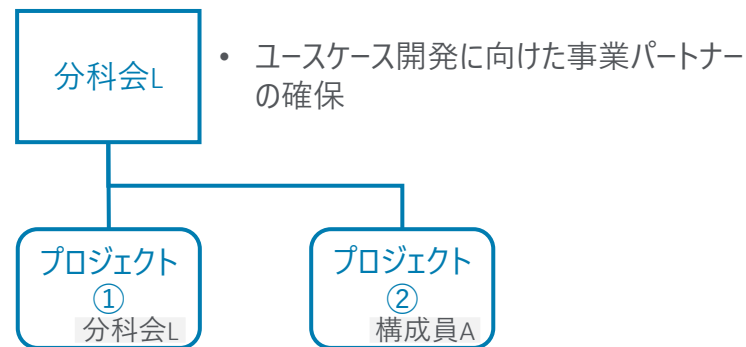
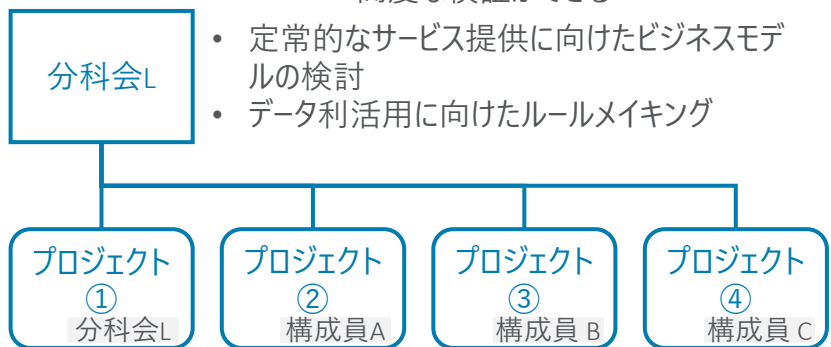
- 精緻に再現された実際の都市空間で、まちづくりシミュレーションが体験できる
- 防災や環境など、実務者向けの高度な検証ができる



<サービス体験イメージ>

- スマホ画面内の動物を感触制御機器を通じて実際に触っているような体験ができる
- 装置のサポートにより、障害者が様々な作業を遂行できる

実施体制



- デジタルツイン上の機能開発
- デジタルツインを活用したユースケースの開発
- デジタルツインのニーズ・活用事例調査
- ユーザー課題の導出・解決施策の検討
- プロトタイプの開発・テスト
- 都民向けプロモーションイベントの実施

- コアとなる感触制御技術の開発・デバイス開発
- 都民向けイベントの運営
- 障がい分野でのユースケース開発